

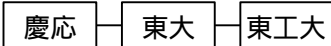
Team of Wide Internet Operators

WIDEインターネット 10年の歩み

1988年

日本のインターネットの幕開け

1988年7月6日、64Kbpsの専用線を利用して東京大学と東京工業大学が接続され、日本で初めてIPパケットが転送された。翌年、1月7日に東京大学と慶應義塾大学が接続されネットワークが徐々に広がっていった。



1989年

8月8日 19:28(JST)
64Kbps 国際線接続

Only One In the World

1991年

10月4日
国際線192Kbps

RIPからOSPFへ

WIDEインターネットは、経路制御にRIPを利用していたが、ネットワークの拡大とCIDRへの対応要求からOSPFを利用するようになった。OSPFを全国レベルで利用するのは初めての試みであり、経路制御に関するさまざまな実験が行われた。

CIDR時代の到来

IPアドレスからクラス概念を取り払ったクラスレスの時代が始まったことにより、経路を集約することができるようになった。WIDEインターネットは経路の集約ができるように、接続組織へのアドレス割り当てを行い、また接続組織にもCIDRブロックへのリネンバリングの強力を要請した。これにより、バックボーンに流れる経路数を大きく減らすことができた。

リネンバリングプロジェクト

IPアドレスの枯渇が騒がれ始めたころ、WIDEインターネットでは従来使用していたクラスBのネットワーク133.4.0.0の利用を全面的に廃止し、他組織に先駆けリネンバリングプロジェクトを推し進めた。これによりクラスBのアドレススペースをNICに返却することができた。

リネンバリング後は、クラスCで8個分に相当するアドレススペースでの運用を行っている。これは今までの1/32のスペースにあたる。

日本で初めてTCP/IPを利用したWIDEインターネットはテストベッドネットワークとしての役割を果たして常に最先端のオペレーションを行ってきました。

現在、世界中には数多くのプロバイダが存在しインターネットを運用していますが、WIDEインターネットのように新しいことにチャレンジしているネットワークはありません。

12月4日 15:45(JST)
国際線1.5Mbps

1998年

1994年

現在のバックボーン

